



多職種で構成する島田病院TASHのメンバー

■特集

TASH(タッシュ)は 島田病院の 多職種スタッフで構成され スポーツに取り組む選手の サポートを行うチームです



オリンピック代表候補へのシンクロナイズドスイミングトレーニング

エンジョイエイジングー健康未来塾ー



医療法人 永広会 島田病院 理事長 島田 永和

**整形外科医が見た「生きる」ということ
…QOLを考える**

京都大学iPS細胞研究所 所長 山中 伸弥 氏

iPS細胞で世界をリード「今の自分になるまで」シンクロナイズド・スイミング日本代表ヘッドコーチ 井村 雅代 氏
シンクロで世界と戦う「今の自分になるまで」**島田理事長・山中氏・井村氏によるトークショー**

インタビュー

**トレーナー&
理学療法士のお仕事**

トピックス

**「生きること」「死ぬこと」
「地域の元気」を応援しています**

ハートフルカフェ

TASH(タッチュ=Top Athlete Support team Heartful)は 島田病院の多職種スタッフで構成され スポーツに取り組む選手のサポートを行うチームです

TASH理念

私たちは、トップを目指すアスリートに対して、最大のパフォーマンスを発揮できるよう最善の医・科学的サポートを実践します。

島田病院が標榜する整形外科には、さまざまな患者さまが来院されます。診療に来られる目的や年代、疾患なども異なります。診療に関わるすべてのスタッフは、はあとふるグループ理念である「私たちは、その人がその人らしく自分の人生を全うすること」をWarm Heart:心 Cool Head:知識 Beautiful Hands:技術で支援します」を実現できるよう探求し続けています。

今回は、専門診療として取り組んでいる、スポーツ整形外科についてご紹介します。この分野だけでも、学校のクラブ活動や趣味、プロ選手、オリンピック選手など多様なニーズに対応しています。私たちが、これまで経験した多くの診療実績の中でも、特にプロ選手やオリンピック選手などのトップアスリートに対して、医師や理学療法士だけでなく、看護師、栄養士、薬剤師など多職種の専門知識や技術を活かして、選手を多面的な視点から集中的にサポートすることで、スポーツへの復帰や競技力向上を可能にすることができました。

TASHは、トップを目指すアスリート、つまりスポーツに対して必死にひたむきに取り組む選手に対して、サポートするチームです。チームスタッフの繋がりを大切に、怪我をした選手の早期スポーツ復帰はもちろん、復帰後のパフォーマンス向上や予防も含めてサポートしています。

専門職の活動内容の一部をご紹介します。トレーナーや理学療法士は、選手の状態チェックやトレーニングを提案・指導し、その競技に必要な体をつくるサポートをします。万が一、けがや障がいがあったときには医師を巻き込んで早期の競技復帰に力を尽くします。管理栄養士は競技特性を知り、トレーニングで体を追い込む時期や試合前の食事の提案や講義を行います。薬剤師は選手が風邪やケガなどで処方された薬がドーピングにならないかどうかのチェックなどを行っています。それぞれの専門職が持つ知識や技術を活かして支援しています。また、選手が強くなるために、TASHが対象とするのは選手だけではなく、指導者やご家族など選手を支える人々でもあります。私たちTASHメンバーがスポーツ現場で学ぶことも多く、選手やコーチそしてまわりの人々を交えたチームになることが理想と考えています。

TASHは、活動を開始して約1年半が経過しました。現在サポートしている競技は増加しています。今年の広報誌『はあとふる46号』

で紹介したシンクロナイズドスイミングをはじめとして、トランポリン、ゴルフ、スピードスケートショートトラック、3×3バスケットに加えて、バレーボール、サッカーも新たに増えました。競技ごとに目標に向けてスタッフで話し合ったり、多職種で連携しながら、活動しています。怪我をした選手を早期復帰させたり、応急処置で試合へ何とか出したり、急な連絡に対して応答したり、全てはアスリートに求められる結果を残すために、できる限りの対応を心がけています。

広報誌や島田病院ホームページなどを通して、少しでもサポートしているスタッフや活動内容を地域の方々にも知っていただき、多くの方からご支援いただけるチームへ成長していきたいと思っています。

今後もTASHは、日本を代表するスポーツ選手達にも必要とされるチームに成長するための活動を継続します。そして、世界大会、オリンピックという舞台に立つ選手をチームでサポートします。

TASHのチームメンバーは、通常の診療も行っています。島田病院やヴィゴラスに来院される青少年から中高年齢者まであらゆる患者さまの診療にTASHのメンバーは関わっており、活動で得た経験やノウハウを伝えています。トップアスリートに対する医・科学的サポートを多くの方へ職員全員が提供できるよう教育・育成への努力を積み重ねていきます。



TASHがサポートするサッカーチームFC大阪。
天皇杯1回戦キンチョースタジアムでの大阪ダービー
FC大阪vsセレッソ大阪



ワールドカップ後半戦出場を決めた全日本ショート
トラック選手権。島田病院ヴィゴラスのスタッフでもある
村竹崇行選手のスタート



北浦 良明トレーナーによるオリンピック代表候補へのシンクロナ
イズドスイミングトレーニング

はあとふるグループの人を育てる取り組みの一つをご紹介します

2011年の6月からアメリカ研修を行っています。今年の6月に第8期の研修を無事に終えて、現在までにのべ31名の仲間がアメリカに渡り、そこでヘルスケアの研修だけに留まらずたくさんの人々との交流、そして異文化体験を行っています。この研修では、日本とアメリカのヘルスケアについての仕組みや保険制度、そしてサービスの違いなどを学びます。これらの経験を日本に持ち帰り、はあとふるグループでどう活かせるのか、日本の制度や文化にどう馴染ませるのかなど議論を行い、はあとふるグループ独自のより質の高いヘルスケアを提供できるように努力し続けています。

また、研修では、ホームステイ、現地の日本人との交流、英会話練習などさまざまなアクティビティも取り入れています。

アメリカ研修報告

TASHチームメンバーもアメリカ研修に参加しています

今回ご紹介するのは、第8期の研修についてです。表紙を飾っているTASHのメンバーに所属している理学療法士6名、整形外科医1名が、ミネソタ州に拠点を置くMAYOクリニックとアリゾナ州に拠点を置くEXOSに約1週間の日程で研修に参加しました。今回の研修では、アメリカのメディカルスポーツ施設を中心に視察して、各施設でたくさんのことを吸収し私たちの組織に持ち帰ることができました。また今回はEXOSで私たちが日本で行っているアスリートへのサポート活動のプレゼンテーションを行いました。リハビリテーションのプログラムや治療アプローチ等について、とても活発な意見交換ができ、双方にとって充実した研修となりました。

私たちTASHはさらにパワーアップして、チームとして各競技の選手に対してこれからも全力でサポートしていく覚悟です。結果にこだわり、選手と共に夢を叶える仕事をしたいと考えていますので、今後ともTASHをよろしくお願い申し上げます。



氏名／森本 圭太
資格／理学療法士, Physical Therapist Assistant, Bachelor of Science
所属／はあとふるグループ 島田病院 リハビリテーション部 TASH
アメリカでの経歴と活動
2012年 SIUC Physical Therapist Assistant学部卒業(Associate Degree)
2013年 PTAとして大学内のStudent Health Center勤務
2014年 SIUC Health Care Management学部卒業(Bachelor Degree)
同年 帰国 島田病院で理学療法士として勤務

アメリカ滞在中にアメリカ研修を立ち上げ、はあとふるグループスタッフの海外研修のコーディネーターとして研修をサポート。現在、アメリカでの研修施設はMAYO Clinic, Athlete Performance(現EXOS), Shelbourne Knee Centerをはじめ26施設とのネットワークを構築。医学総合雑誌SPORTSMEDICINE(スポーツメディスン)にもアメリカ留学や研修についての情報を連載中。

これまでのアメリカ研修に参加したスタッフの声

八尾はあとふる病院
リハビリテーション課 理学療法士

..... 元石 光裕(第2期参加)

怪我や障がいをお持ちの方が、形にこだわらず「やりたいこと」を実現しつつ、人や社会とつながる姿が印象的でした。普段出会う患者さま・ご利用者それぞれに、「やりたいこと」を実現していただけるよう、私たちスタッフも、人や社会とつながり続けていきたいと思います。



アメリカ人との交流パーティー

島田病院
リハビリテーション課 理学療法士

..... 兵頭 惇(第5期参加)

私にとってアメリカ研修が人生初の海外だったこともあり、緊張の連続でした。その経験のおかげで、何事も一度経験するかしないかの差は非常に大きいと感じました。さらに、人について考える視点が増え、まだまだ知らないことが多くあると痛感しました。それとは反対に、日本らしさ、島田病院らしさという特徴を今までより考えるようになりました。研修を通して、経験すること、視野を広げること、個性を持つことを感じ、これらを意識しながら、これからもヘルスケアを実践していきます。



研修でのホームステイ体験

介護サービスセンターゆうゆう亭
ケアマネジャー

..... 江田 裕匡(第6期参加)

私がアメリカ研修で得られたものを一言で言うと、「マネジメント力」だと実感しています。マネジメント力が医療・介護・福祉専門職として必要不可欠であることは、個々の患者さまやご利用者のケースはもちろんのこと、スタッフや職場環境に対しても言えます。一つひとつの物事に対して、その先になにがあるのか？良い成果物を得るにはどのように進めるべきなのか？常日頃、それらを考えられる力を高めることが出来ました。



南イリノイのホスピスを視察

平成 27 年 7 月の世界水泳で 8 年ぶりのメダル獲得！ シンクロナイズドスイミング日本代表選手達のサポートについてインタビュー!!

Q 今年の世界水泳の日本代表には7名の井村シンクロクラブの選手が選出されており、その選手達のサポートをしていたと思いますが、どのような対応をされていましたか？

A 日本代表で、ある程度メニューは決まっていたので、個別に必要なウエイトトレーニングの確認や体幹トレーニングの指導を行いました。また、同じサポートスタッフである西谷理学療法士は、浅岡さん(現:日本シンクロ代表トレーナー、元:当法人理学療法士)から、選手の状況を確認し、状態チェックやリハビリなどメディカルな部分の対応を行いました。そのため、関わるスタッフ同士で連携してサポートし、その中で私はトレーニング面を中心に対応しました。

Q 結果を残すために、勝つために必要なことはどのようなことですか？

A 試合になると頼れる者は自分だと思っています。そのため、いろんなトレーニング方法がありますが、自分と向き合ってどこまで追い込めるかが必要だと思いますし、世界選手権の選手達を見ていると、そう感じました。そのため、型にはまったトレーニングで強化するだけでなく、あえて追い込むことを含めたサポートをすることが自分の役目だと思います。



北浦 良明

(NATA-ATC、以前にカンザスシティロイヤルズのマイナーでトレーナーとして活躍) (サポートスポーツ:シンクロナイズドスイミング(井村シンクロクラブ))

Q 今後の目標と意気込みをお願い致します！

A 今回メダルが取れたことで、目標を改めて実感でき、それを目指すために井村シンクロに選手達がきていることを強く意識して対応したいと思います。そして、選手の心の中にある目標を感じ取って、その達成に向けて関わりたいと思います。2016年のリオオリンピックに向けてサポートしていきますので、応援よろしくお願い致します。

平成 27 年 8 月の全国中学校バレーボール大会でベスト 8！チーム対応や全国大会帯同についてインタビュー!!

Q チームと契約して現場対応までの経緯を教えてください。

A 最初は知人との繋がりからボランティアでチームサポートを約半年くらい行いました。その後、チームの状況に対する介入の必要性和、契約することで可能になる時間など提案内容をまとめて、監督、保護者の方々に説明して、昨年から正式にチーム契約して対応する形となりました。普段は練習時の対応を週1回、2時間程度関わっています。内容は、個別対応や状態のチェック、チームでのストレッチなどのメニュー提案と指導を行っています。今年8月には全国大会が北海道であり、4日間の試合帯同も行いました。

Q 現場対応でやりがいを感じるのどのような時ですか？

A これまで選手の対応をしてきて、今年の8月が初めて全国大会の試合帯同だったのですが、そのときは選手と一緒に過ごす時間が多く、一緒に勝敗の喜びや悔しさを味わって共有できたことが、現場対応のやりがいと魅力を感じた瞬間でした。



松井 良介

(理学療法士、日本バレーボール協会メディカル委員会スタッフ) (サポートスポーツ:バレーボール(金蘭会中学校))

Q 今後の目標と意気込みをお願い致します！

A 目標は来年の全国優勝ですが、今年よりもメンバー層は厳しい状況です。そのため、来年に向けて、メディカル、フィジカルの面で取り組みます。それだけでなく、選手育成・指導として、自己管理ではなく、選手同士で管理できるような管理体制に向けて働きかけて、強いチームを目指したいと思います。応援よろしくお願い致します。

「エンジョイエイジングー健康未来塾」

平成27年8月9日(日) ホテル阪急インターナショナルで開催

ノーベル生理学・医学賞を受賞された京都大学iPS細胞研究所所長・教授の山中伸弥氏、そしてカザンの世界水泳で、マーメードジャパンをメダルに導いたシンクロ日本代表ヘッドコーチの井村雅代氏という豪華ゲストをお迎えし、当法人の理事長 島田永和の3名がそれぞれに講演し、その後、熱いトークショーが展開されました。約600名の参加者にお集まりいただきました。

講演Ⅰ 『整形外科医が見た「生きる」ということーQOLを考えるー』……………理事長 島田 永和

医師として経験した自分自身の考えをしっかりと持ち、説明を理解したうえで、自分で治療を選択した患者さんの決断の事例をいくつか紹介することで「自分らしく生き、そして死ぬ」ということを提示しました。QOL(自分らしく生きる)を考えることを皆さんにテーマとして投げかけ、ガンジーの「あす死ぬかのように生き、永遠に生きるかのように学ぶ」という言葉で講演を終えました。



講演Ⅱ 『ips細胞で世界をリード「今の自分になるまで」』……………山中 伸弥氏

島田病院勤務時代の山中氏が整形外科医から研究の道を選択する際の島田理事長との結びつきをユーモラスに披露されました。アメリカの恩師から「Vision&Hard Work」を学ばれ、日本人は一生懸命働くが、目標・理念がないと気づかれ、帰国後は「細胞の初期化(あらゆる細胞になる万能細胞)」「今治せない人を治す」など目標を掲げて研究を続けていると話されました。



講演Ⅲ 『シンクロで世界と戦う「今の自分になるまで」』……………井村 雅代氏

10年ぶりに日本代表ヘッドコーチとして、世界水泳で4つのメダルを獲得し、帰国されたばかりです。「ひつこい」「最後の最後まであきらめない」「できることは全部やる」という信念を持って、ぶれない姿勢の厳しい指導について話されました。展示した乾選手の水着やメダルからもパワーを感じました。



鼎談 キーワードは「人を育てる」 島田理事長・山中氏・井村氏のトークショー

スポーツも研究も世界と日本では「育てる環境の違い」が大きく、個人のがんばりだけでは世界に通用しないレベルになっていること。良い環境を用意し、そこで「なにくそ」と頑張る人を組織的に育てないといけないと話が盛り上がりしました。

最後に「これから」について島田理事長が問うと、山中氏は「実験をやめて、実験をする人のための道を整える」。井村氏は「誰も見たことのない、日本人にしかできない新しいシンクロをつくる」と答えが返ってきました。



参加された方からいくつかお手紙が届きました。世界をリードし、世界と戦うお二人の人間性、その熱さに感動され、パワーをいただくことができたとか書かれていました。はあとふるグループへのヘルスケアもビジョンをもって、世界に役立つ活動を、地域を大切にしながら、地道に続けていくんだと改めて考える1日になりました。

はあとふるグループ公開講座 島田病院&介護老人保健施設 悠々亭

「生きること」「死ぬこと」 自分らしく生き、自分らしく死ぬ。

2015年10月2日(金)14:00～ LICはびきの Mホールで開催しました。当日は240名の方々に参加いただき、笑いも交えながらの公開講座になりました。



岡田玲一郎氏の講演

第1部は、社会医療研究所 所長であり、医療従事者や一般市民に対して長年研究や啓蒙活動に取り組み、あるべき医療の姿を示し続けている岡田玲一郎氏の「死ぬ」から見た「生きる」をテーマにした講演でした。岡田氏は終末期医療について、医療従事者、家族、本人と立場が変わると終末期の医療が集中治療から緩和ケアまで異なる結果が出たアンケートを示し、おまかせ医療ではなく、自分自身も学び決める姿勢を持たなければならないと話されました。

第2部は、島田病院 理学療法士 栄徳篤志による「どこでもできるワンポイントリハビリ体操講座」です。良い姿勢を保つことや、予防体操の実践を行いました。



理学療法士 栄徳篤志の実技を取り入れた講演

我が国は、総人口の内、65歳以上の高齢者が占める割合である高齢化率は26.8%（平成26年版厚生労働白書高齢化の推移と将来推計より）となっており、4人に1人が65歳以上という高齢社会を迎えています。私たちが暮らす、羽曳野市においても例外ではなく、高齢化率は26.9%（平成26年版羽曳野市の総人口の推移より）で、ほぼ同様の推移となっています。このような背景で、「生きること」「死ぬこと」は、重いテーマのように感じるかもしれませんが、決してそうではありません。私たち、はあとふるグループでは、老いに逆らうアンチエイジングという考えではなく、むしろ老いを楽しむエンジョイエイジングと考え



島田病院 院長 島田永和の講演

第3部は、はあとふるグループ理事長であり、島田病院院長でもある島田永和の「生きる」から見た「死ぬ」をテーマにした講演でした。すでに多死社会となっている社会背景を話し、自分が死ぬときには、どこでどのように死にたいかを事前に、家族や友人と話をすること、心構えを持って準備

をすすめておくことが大切であると話しました。「どんな風に死ぬのか?」は「最期までどう生きるか?」ということであり、それは「今どう生きるか?」ということにほかならないと締めくくりました。

第4部は、岡田玲一郎氏、島田永和院長との対談です。岡田先生がアメリカで手術をした経緯や、「自分の死因は癌が良い。会いたい人に会えるから」など独自の価値観による話に、会場の方からの質問も飛びだし、盛り上がりを見せました。



岡田玲一郎氏と島田院長との対談

ています。人生を自分らしく生きること、そのための心構えや覚悟を地域の方々と一緒に考える良い機会になったのではないのでしょうか。

私たちは、今後も地域の方々と一緒に考える機会を設け、QOL（人生の質）つまり「生きてて良かったと思えるヒトトキ」をできるだけたくさん作れるような活動を続けていきたいと考えています。

次回の公開講座は、平成28年1月末頃を予定しています。詳細は、島田病院ホームページやチラシ等で案内をいたしますので、ぜひご参加ください。

『地域の元気』を応援しています

公開講座や、学会での講演などを通じて、はあとふるグループの活動を知っていただく機会が増えたことからか、地域の公的機関からご依頼いただく機会も増えています。今回は、八尾はあとふる病院の地域活動の中から一部を紹介します。

「高次脳機能障がい及びその関連障害に対する支援普及事業」

大阪府では、高次脳機能障がい[※]者や、その家族が地域で相談や支援を受けることができる体制を整備するための事業を推進しています。中河内圏域では、平成25年度より八尾はあとふる病院が地域コーディネーター拠点として事業委託を受けています。八尾はあとふる病院では武平作業療法士が中心となって、医療機関、障がい福祉サービス事業所、行政などと連

携して、支援の充実や、地域の方々に障がいに対する理解を深めていただくために、地域支援ネットワーク会議や勉強会の開催など、さまざまな活動をしています。

※事故や病気により脳が損傷された結果、記憶・注意・遂行機能・言語といった認知面および感情や行動などに生じる障がい。



平成26年度末のネットワーク会議



会の趣旨を武平作業療法士が熱弁



医療機関向けの勉強会後のグループワーク

「元気もりもり教室」

八尾市在住の65歳以上の方を対象に、八尾市保健センターや地域コミュニティセンターなどで開催している介護予防教室です。栄養、歯科、心療内科などの各専門家から健康について詳しく学ぶ、計6回の充実した教室です。その中の「身体を適度に動かすこと」について、八尾はあとふる病院の金谷理学療法士が担当しています。この教室が好評で、さらに八尾市保健センターから、地域啓発活動に関心のある市民を対象とした、志紀地区「健康大学」の講師の依頼もあり、活動の場が広がっています。



金谷理学療法士の講義風景。伝えたいという気持ちをこめて語りかけようという講義は、医学的な内容も分かりやすいと評判。



はあとふるグループ 使命

私たちは、
良質のヘルスケアサービスを
効率よく地域の方々に
提供し続けます

はあとふるグループ 理念

その人がその人らしく
自分の人生を全うすることを

知識
Cool Head
心 Warm Heart
Beautiful Hands
技術
で支援します

はあとふるグループの基本方針

- 1.「確かな知識と技術」を追求します
- 2.「心に届く」を追求します
- 3.「安全」を追求します
- 4.「信頼でつながるチーム」を追求します



ハートフル カフェ
Heartful Cafe

はあとふる編集部

Eメールアドレス: yshimada@heartful-health.or.jp
直通FAX: 072-953-1032

広報誌 はあとふる 祝50号!

平成13年1月 21世紀のスタートと共に創刊号が発刊されました。早いもので14年の月日が流れ、50号を発刊することができました。広報誌の企画、製作に取り組む「はあとふる編集部」は職員が少しずつ入れ替わりながらやってきました。この素人編集集団の作る広報誌を読んでいただいている方々には、この場をお借りして感謝をお伝えしたいと思います。

広報誌「はあとふる」のコンセプトは、「スタッフが実際の現場でヘルスケアサービスに取り組んでいる姿を通して、私たちの理念に沿った“はあとふるケア”を地域の皆さまに広報する」です。医師をはじめとした専門職は日々研鑽し、ケアの質を追求し続けています。はあとふる編集部では「その姿や実績を地域の皆さまに、わかりやすく伝え続ける」つまり、はあとふるヘルスケアと地域の方々をつなぐ橋渡し役として取り組んできたつもりです。記事内容を決める過程や、わかりやすく伝えるためのデザインなど、意見を出し合っていますが、完成した後の振り返りでは、もっとこうすれば良かったと意見がでることもあり、まだまだ発展途上と自覚しています。しかし、広報誌の質向上のために参加した「病院広報誌コンクール第9回BHI賞」では、

特別賞を受賞するなど結果を出すこともできました。

はあとふるグループが存在し続ける限り、ヘルスケアサービスの質向上にむけた取り組みには終わりがなく、それを地域に橋渡しする「はあとふる編集部」の取り組みにも終わりはありません。さまざまな方からのご意見、ご感想を取り入れ、より一層、広報誌の質が向上できるように取り組んでいく覚悟です。※この広報誌を読んでいただいている方々からの、ご意見、ご感想をお待ちしています。ご連絡は、上記Eメールアドレスか直通FAXまで。



※広報誌はあとふる 創刊号



はあとふる グループ

●医療法人(財団)永広会

島田病院 072-953-1001
Eudynamics はびきのヴィゴラス 072-953-1007
介護老人保健施設 悠々亭 072-953-1002
在宅介護支援センター 悠々亭 072-953-1003
介護サービスセンター ゆうゆう亭 072-953-5514
〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山100-1

ヘルパーステーション 悠々亭 072-953-1062
訪問看護ステーション ハートパークはびきの 072-953-1004
〒583-0883 大阪府羽曳野市向野3-96-7

八尾はあとふる病院 072-999-0725
〒581-0818 大阪府八尾市美園町2-18-1
介護サービスセンター はあとふる 072-999-8126
〒581-0815 大阪府八尾市宮町5-6-22

●社会福祉法人 はあとふる

ゆうゆうハウス 通所介護 サービス付き高齢者向け住宅 072-931-1616
〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山96-10